

## 生活保護申請時の調査～私用携帯での撮影中止を要請市「適切でなかった。見直したい」と回答

4月30日、「熊本市生活と健康を守る会」は熊本市東福祉事務所に対して、生活保護申請後の訪問調査において、ケースワーカーが私用携帯で健康保険証や車の走行距離などの個人データを撮影していたことについて、中止するとともに謝罪を求める要請を行いました。市議団も同席し、必要な書類については原則コピーとすることなど見直しを求めました。

要請の中で、市は「コピー代の負担を求めることを避けるため。手続きを迅速にするために行った」との

見解を示しましたが、「私用携帯での個人データの撮影は適切ではなかった。見直したい」と回答。また、申請者に対して十分な説明を行わなかったことについて謝罪をした旨を回答しました。

### プライバシー保護のため 新たなマニュアル策定

要請後、各区で同様の調査が行われていたことも明らかになり、市は私用携帯の利用を中止するよう各区に指示し、新たなマニュアルを策定することとしています。



## 市民の不安や思いに寄りそう保護行政を！

「本当はもっと仕事をしたい…」突然の病気によって仕事を続けられず、保護の申請を行った男性は、要請の中で自らの思いを語りました。生活保護を申請する際は、誰もが多くの不安を感じています。

最低限の生活を保障する最後のセーフティーネットである生活保護が、市民の不安や思いに寄り添うものとなるよう、ケースワーカーの質のさらなる改善や体制強化など対応が求められます。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団  
ますだ牧子 上野みえこ なすまどか  
熊本市中央区手取本町1-1 3階

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp  
HP：http://www.jcp-kumamoto.com/

NO. 899  
2014年5月11日  
電話 328-2656  
FAX 359-5047

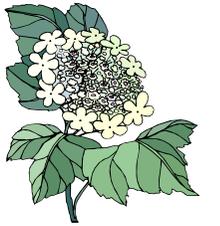
## 6月議会の日程が決まりました

- 6月6日（金）開会・本会議
- 9日（月）～12日（木）一般質問
- 16日（月）委員会（請願・陳情の趣旨説明）
- 19日（木）予算決算委員会締めくくり総括質疑
- 23日（月）最終日・本会議

★請願締め切りは、6日午後5時まで

★陳情書は、10日までに

いずれも議会事務局へ、ご提出ください。



## ～上野みえこ議員が一般質問を行います～

6月10日(火)午後2時より、傍聴は「議会棟5階本会議場」

\*どなたでも、傍聴できます。お誘いあわせで、どうぞ。

\*取り上げてほしい問題がありましたら、日本共産党熊本市議団まで。

電話 328-2656



### 【控室から】 「なまもの日」の決意

上野 みえこ

一番下の子がこの春から一人暮らしを始め、今年の「なまもの日」は、「なまものと過いよ」といふことなせいで、子どもたちとごきやかに出かけていた頃が懐かしく思い出されます。その代り、孫を連れてちょっと外へ出かけました。やがて2歳の孫は、出かけるのが大好きで、「お出かけよ」と言いつつ、車の鍵を持って走ってきます。出発！

幼子の笑顔に、楽しいひと時を過ごすことができた。総務省の公表したデータでは、子どもの人口は33年連続減少、昨年よりさらに16万人も減り、総人口に占める子どもの割合は、主要国の中でも最低水準です。「少子化」が社会問題と言われて久しくなりますが、問題は深刻化の一途です。若い人たちに広がるワーキングプアは結婚を遠ざけ、結婚しても子どもを産むのがためらわれ、子どもが生まれても育てにくいというのが現実です。国や自治体のあり方が問われています。しかし熊本市では、保育所の待機・保育料が増え続け、子ども医療費助成など経済的支援も他都市より遅れ、お粗末な子育て支援策です。若い人が当たり前に働き、安心して結婚・子育てができる熊本市にと、力を尽くす決意です。

おはあちゃん、頑張るからね！



# 災害の教訓を具体的に生かし、防災力の向上を！

日本共産党市議会だより  
2014年5月11日号

## ＜行政視察報告＞ 中越大震災の教訓から、日本一災害に強い都市を目指す長岡市の取り組み（上野みえこ）

2004年10月に発生した中越大震災は、震源地のあった長岡市に大きな被害をもたらしました。震源地は長岡市川口町、M6.8、最大震度7。

長岡市だけで、死者28人・負傷者2,438人・住家被害（全壊2,197棟、大規模半壊1,457棟、半壊7,052棟、一部損壊58,839棟）、建物火災7件。64,592戸が停電、都市ガス供給停止23,000戸、断水7万戸、下水道使用不能10,393世帯で、推定被害額は4,500億円。最大時には5万人以上、市民の4人に一人が避難する状況でした。中越大震災は、大きな余震が多発し復旧を遅らせ、地盤災害が大きく新幹線も脱線、液状化被害も大きく深刻な宅地被害をもたらした、震源が山間部で中山間地の被害が大きかった、豪雪による2次被害の発生などの特徴がありました。長岡市は、この大災害の教訓を生かし、災害に強い都市づくりをすすめました。

熊本市でも、一昨年に発した北部九州豪雨災害の教訓が具体的な形で防災対策にどのように生かされているか、繰り返し点検し、防災力の向上に努めていくべきです。

### 「防災体制強化の指針」を定める

議会や職員はもちろんのこと、市民や企業・NPO・ボランティア・他自治体職員など、広範な人々の意見やアイデアを集約し、災害を検証しました。「長岡市防災体制検討委員会」が設置され、災害の検証をもとに、「新たな防災体制に関する提言」がまとめられ、「長岡市防災体制強化の指針」がつけられました。



#### 「防災体制強化の指針の5つの柱」

事前の準備と適切な災害対応を重視し、貴重な災害経験を最大限に生かし、実践的な防災体制を確立、優しさや安全性を兼ね備えた避難環境を整備することをめざし、「5つの柱」が掲げられました。

- ① 災害予防と減災対策
- ② 地域防災力の強化
- ③ 災害情報伝達体制の整備
- ④ 応急対策と避難環境の整備
- ⑤ 災害対策本部機能の強化

### 「防災強化指針」を生かした具体的な取り組み

#### 【地域防災計画の見直し】

災害の経験を踏まえ、災害予防と減災対策を重視。地域防災力の強化や、災害対策本部機能の強化などをポイントにした見直しをしました。

#### ＜救援物資への対応＞

中越地震では、全国から寄せられた救援物資の取扱いに苦勞。特に個人からの救援物資は、いろいろなものが混在しているために仕分けして活用するのが負担となり、結果的には災害対応の支障に。

そこで、民間企業等や自治体・官公庁と災害時支援協定を結び、流通在庫の活用を行うことにしました。長岡市は、食糧以外の備蓄は一定数あるものの、食糧・水の備蓄はされていません。

#### \*災害時の「水」の供給は

市民防災公園の地下にある水道施設が「飲料水兼用大型貯水槽」になっています。（100㎡、11,000人の3日分）



←  
この地下です。

#### 【避難所環境の整備】

「学校」を地域の避難所として活用するための改修や整備を実施。

① すべての市立小中学校に避難所対応工事を実施。

（3年間で完了、1億円）

出入口にスロープ、トイレの洋式化、体育館にCAV・電話・LANの端末設置、受水槽に蛇口を設置、LPガスの接続口を設置

② 学校施設の改修を行う場合、避難所として使いやすいように、災害を想定して設計

- 1、体育館と校舎の間に屋根付き広場をつくる
- 2、体育館の隣に給食室を配置
- 3、避難エリアと教育エリアを分離（避難所として使いながら、教育に差し支えない）

#### 【各種マニュアル・パンフの作成】

各種の災害対応マニュアルや、市民向け防災パンフレットを作成するとともに、情報伝達体制の整備も行う。

